

「生活意識に関するアンケート調査」(第61回)の結果 2015年3月調査

<はじめに>

日本銀行では、政策・業務運営の参考とするため、本支店や事務所を通じた広報活動のなかで、国民各層の意見や要望を幅広く聴取するよう努めており、その一環として、1993年以降、全国の満20歳以上の個人4,000人を対象に「生活意識に関するアンケート調査」を実施しています。この調査は、日本銀行が別途行っている「企業短期経済観測調査(短観)」のような統計調査とは異なり、生活者の意識や行動を大まかに聴取する一種の世論調査です。

<目次>

1. 要 旨	
1-1. 景況感等	2 頁
1-2. 暮らし向き、消費意識	5 "
1-3. 物価に対する実感	12 "
1-4. 先行きの地価動向	16 "
1-5. 日本経済の成長力	17 "
1-6. 日本銀行の金融政策に関する認知度	18 "
2. 集計対象標本の属性分布	19 "
3. アンケート調査結果の詳細	20 "

【調査概要】

- ・ 調査実施期間 : 2015年2月6日(金)～3月5日(木)
- ・ 調査対象 : 全国の満20歳以上の個人
- ・ 標本数 : 4,000人(有効回答者数2,223人<有効回答率55.6%>)
- ・ 抽出方法 : 層化二段無作為抽出法
- ・ 調査方法 : 質問票によるアンケート調査(郵送調査法)

<本件に関する照会先>
情報サービス局総務企画グループ
岸、杉山、円福寺、阿部(直通:03-3277-2405)

1. 要 旨

1-1. 景況感等

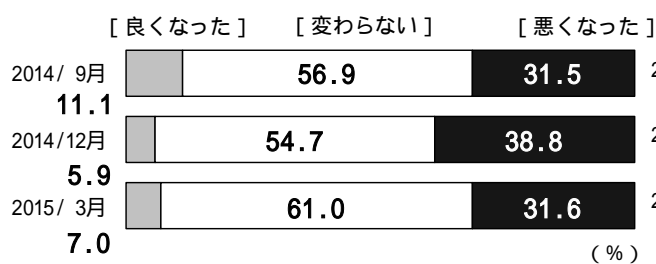
1-1-1. 景況感

景況感のうち、現在（1年前対比）については、「良くなった」との回答が増加し、「悪くなった」との回答が減少したことから、景況感D.I.は改善した。先行き（1年後）については、「良くなる」との回答が増加し、「悪くなる」との回答が減少したことから、景況感D.I.は改善した。

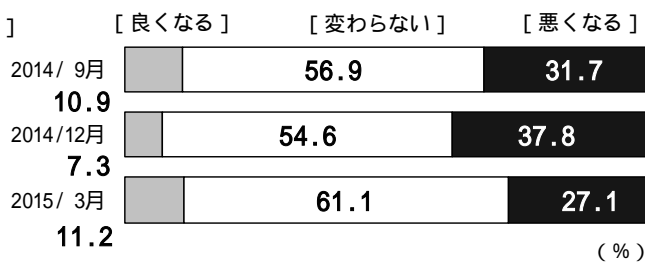
なお、現在の景気水準については、「良い」、「どちらかと言えば、良い」との回答の合計が増加した一方、「どちらかと言えば、悪い」、「悪い」との回答の合計が減少した。

(図表1) 景況感〔Q1、3、4〕

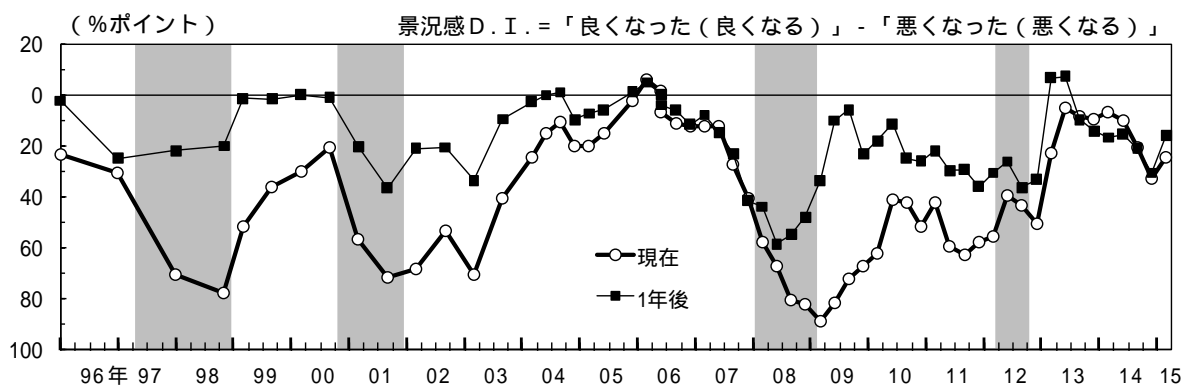
< 現在を1年前と比べると >



< 1年後を現在と比べると >



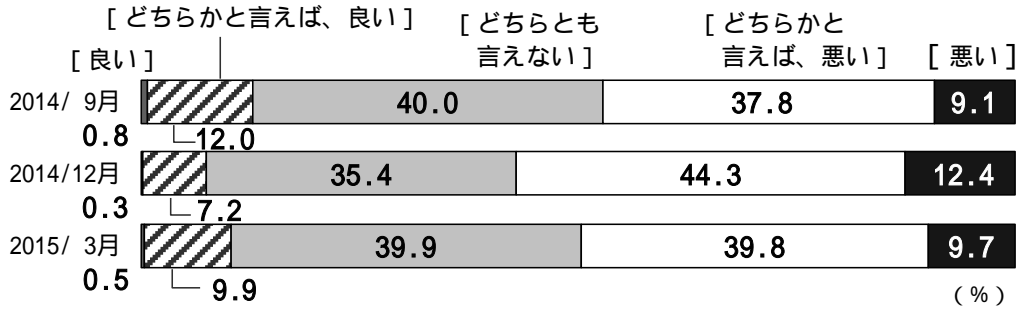
< 景況感D.I.の推移 >



	12/6	12/9	12/12	13/3	13/6	13/9	13/12	14/3	14/6	14/9	14/12	15/3
現在の景況感D.I. (前回比)	39.5 (+16.1)	43.1 (3.6)	50.6 (7.5)	22.6 (+28.0)	4.8 (+17.8)	8.3 (3.5)	9.2 (0.9)	6.4 (+2.8)	10.0 (3.6)	20.4 (10.4)	32.9 (12.5)	24.6 (+8.3)
1年後の景況感D.I. (前回比)	26.0 (+4.4)	36.1 (10.1)	33.1 (+3.0)	6.8 (+39.9)	7.5 (+0.7)	9.6 (17.1)	14.0 (4.4)	16.5 (2.5)	15.3 (+1.2)	20.8 (5.5)	30.5 (9.7)	15.9 (+14.6)

- (注) 1. 2006/6月調査までは訪問留置法、2006/9月調査からは郵送調査法（2006/6月の予備調査を含む）。
 2. 2006/6月調査までのD.I.は「良くなっていると思う」-「悪くなっていると思う」。
 3. 本調査は1998/3月まで年1回、1998/11月から2004/3月までは年2回、2004/6月からは年4回実施。2005/9月は実施せず。
 4. 現在の景況感D.I.のこれまでのピークは6.1（2006/3月）、ボトムは88.9（2009/3月）。
 1年後の景況感D.I.のこれまでのピークは7.5（2013/6月）、ボトムは58.3（2008/6月）。
 5. シャドー部分は、景気後退期。

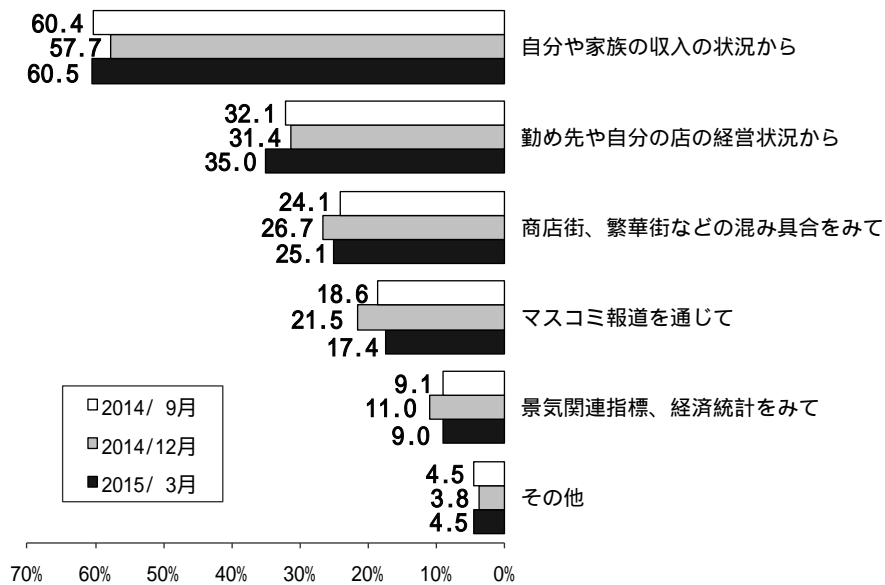
<現在の景気水準>



1-1-2. 景況判断の根拠等

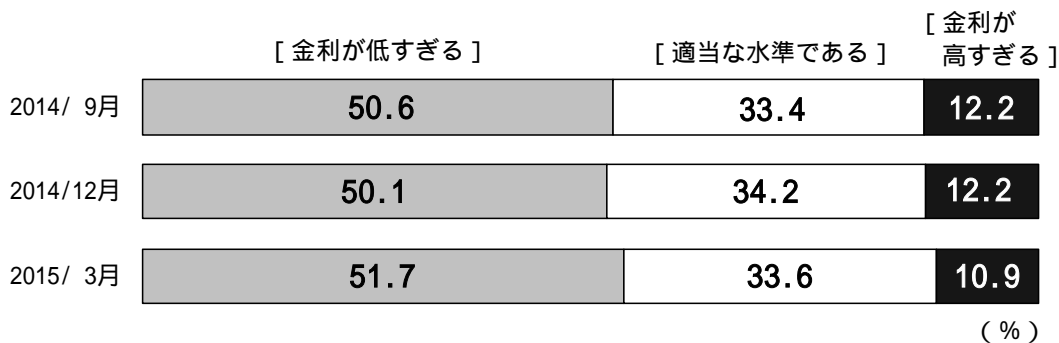
景況判断の根拠については、「自分や家族の収入の状況から」との回答が最も多く、次いで「勤め先や自分の店の経営状況から」、「商店街、繁華街などの混み具合をみて」といった回答が多かった。

(図表2) 景況判断の根拠(2つまでの複数回答)[Q2]

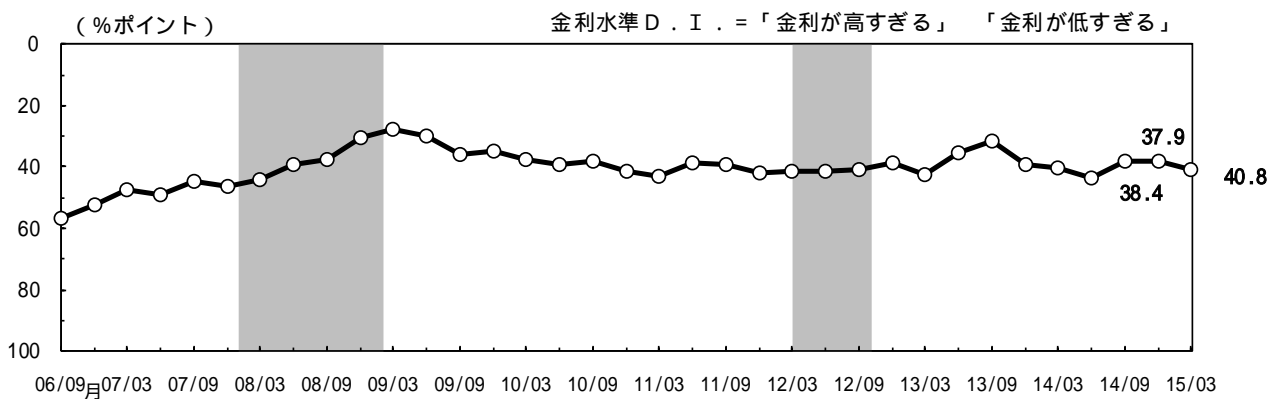


金利水準についての見方は、「金利が低すぎる」との回答が増加し、「金利が高すぎる」との回答が減少したことから、金利水準D.I.はマイナス幅を拡大した。

(図表 3) 金利水準についての見方〔Q5〕



< 金利水準D.I.の推移 >



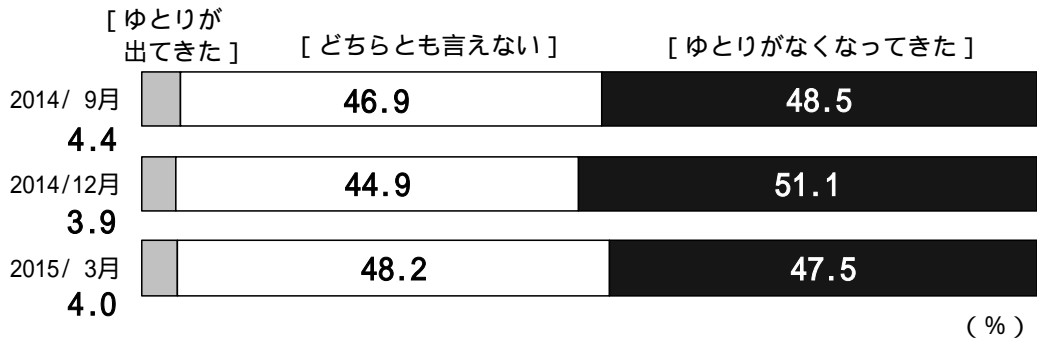
- (注) 1. 本設問は2006/9月から実施。
 2. 金利水準D.I.のこれまでのピークは 27.9 (2009/3月)、ボトムは 56.5 (2006/9月)。
 3. シャドー部分は、景気後退期。

1-2. 暮らし向き、消費意識

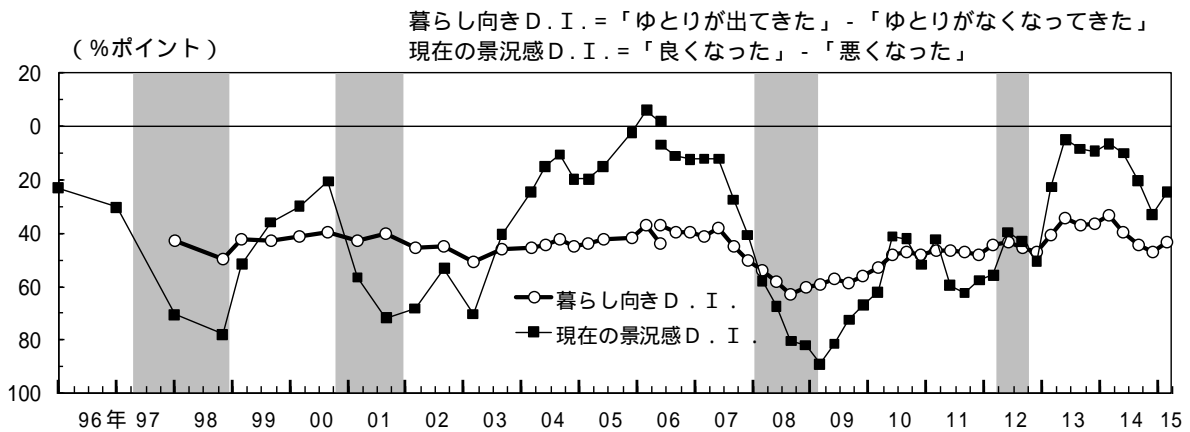
1-2-1. 現在の暮らし向き

現在の暮らし向き（1年前対比）については、「ゆとりがなくなってきた」との回答が減少したことから、暮らし向きD.I.は改善した。

（図表4）現在の暮らし向き〔Q6〕



< 暮らし向きD.I.の推移 >



	12/6	12/9	12/12	13/3	13/6	13/9	13/12	14/3	14/6	14/9	14/12	15/3
暮らし向きD.I. （前回比）	43.4 (+0.9)	45.2 (1.8)	47.1 (1.9)	40.7 (+6.4)	34.3 (+6.4)	36.9 (2.6)	36.2 (+0.7)	33.5 (+2.7)	39.8 (6.3)	44.1 (4.3)	47.2 (3.1)	43.5 (+3.7)
現在の景況感D.I. （前回比）	39.5 (+16.1)	43.1 (3.6)	50.6 (7.5)	22.6 (+28.0)	4.8 (+17.8)	8.3 (3.5)	9.2 (0.9)	6.4 (+2.8)	10.0 (3.6)	20.4 (10.4)	32.9 (12.5)	24.6 (+8.3)

- （注）1. 2006/6月調査までは訪問留置法、2006/9月調査からは郵送調査法（2006/6月の予備調査を含む）。
2. 2006/6月調査までの景況感D.I.は「良くなっていると思う」 - 「悪くなっていると思う」、暮らし向きD.I.は「どちらかと言えば、ゆとりが出てきたと思う」 - 「どちらかと言えば、苦しくなってきたと思う」。
3. 本調査は1998/3月まで年1回、1998/11月から2004/3月までは年2回、2004/6月からは年4回実施。2005/9月は実施せず。
4. 暮らし向きD.I.のこれまでのピークは 33.5（2014/3月）、ボトムは 62.6（2008/9月）。現在の景況感D.I.のこれまでのピークは 6.1（2006/3月）、ボトムは 88.9（2009/3月）。
5. シャドー部分は、景気後退期。

1-2-2. 収入・支出

収入の増減については、実績(1年前対比)は、「増えた」との回答が増加し、「減った」との回答が減少したことから、現在の収入D.I.はマイナス幅を縮小した。先行き(1年後)は、「増える」との回答が増加し、「減る」との回答が減少したことから1年後の収入D.I.はマイナス幅を縮小した。

(図表5) 収入〔Q7、8〕

< 現在を1年前と比べると >

	[増えた]	[変わらない]	[減った]
2014/ 9月 9.9		47.2	42.4
2014/12月 9.2		49.8	40.8
2015/ 3月 10.2		51.3	38.3

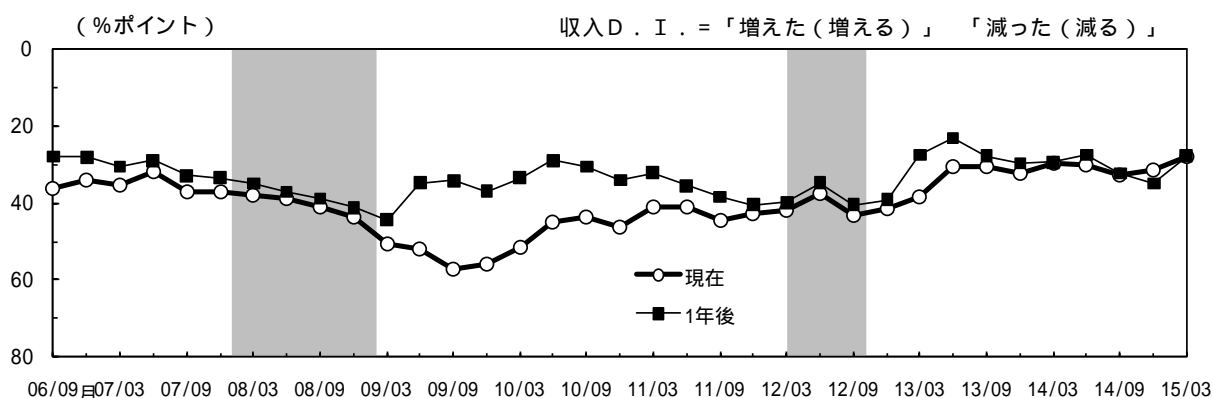
(%)

< 1年後を現在と比べると >

	[増える]	[変わらない]	[減る]
2014/ 9月 6.7		53.9	39.0
2014/12月 6.6		51.4	41.5
2015/ 3月 8.7		54.5	36.5

(%)

< 収入D.I.の推移 >



	12/6	12/9	12/12	13/3	13/6	13/9	13/12	14/3	14/6	14/9	14/12	15/3
現在の収入 D.I. (前回比)	37.7 (+4.3)	43.0 (5.3)	41.5 (+1.5)	38.4 (+3.1)	30.5 (+7.9)	30.7 (0.2)	32.2 (1.5)	29.8 (+2.4)	30.0 (0.2)	32.5 (2.5)	31.6 (+0.9)	28.1 (+3.5)
1年後の収入 D.I. (前回比)	34.7 (+5.2)	40.5 (5.8)	39.1 (+1.4)	27.5 (+11.6)	23.1 (+4.4)	27.7 (4.6)	29.7 (2.0)	29.4 (+0.3)	27.5 (+1.9)	32.3 (4.8)	34.9 (2.6)	27.8 (+7.1)

(注) 1. 郵送調査となった2006/9月以降を掲載。

2. 現在の収入D.I.のこれまでのピークは 29.8(2014/3月)、ボトムは 57.3(2009/9月)。

1年後の収入D.I.のこれまでのピークは 23.1(2013/6月) ボトムは 44.3(2009/3月)。

3. シャドー部分は、景気後退期。

支出の増減については、実績（1年前対比）は、「増えた」との回答が減少し、「減った」との回答が増加したことから、現在の支出D.I.はプラス幅を縮小した。1年後の支出D.I.は「減らす」との回答が増加したことから、マイナス幅を拡大した。

(図表6) 支出〔Q9、11〕

< 現在を1年前と比べると >

	[増えた]	[変わらない]	[減った]
2014/ 9月	43.6	35.7	19.9
2014/12月	47.1	32.8	18.8
2015/ 3月	43.7	35.0	20.3

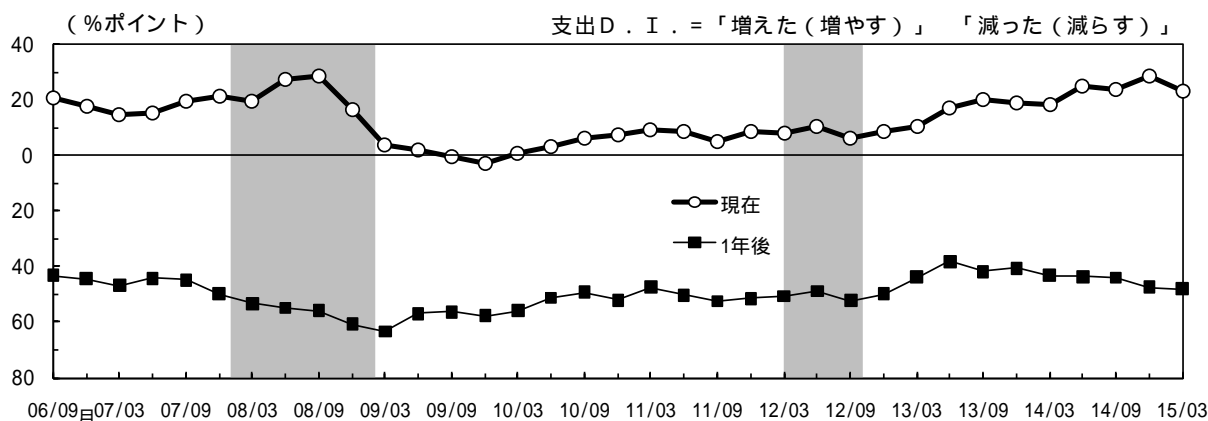
(%)

< 1年後を現在と比べると >

	[増やす]	[変えない]	[減らす]
2014/ 9月	6.3	42.9	50.3
2014/12月	4.8	42.0	52.3
2015/ 3月	5.0	41.2	53.1

(%)

< 支出D.I.の推移 >



	12/6	12/9	12/12	13/3	13/6	13/9	13/12	14/3	14/6	14/9	14/12	15/3
現在の支出 D.I. (前回比)	10.5 (+2.8)	6.4 (-4.1)	8.4 (+2.0)	10.7 (+2.3)	17.1 (+6.4)	19.9 (+2.8)	19.0 (-0.9)	18.1 (-0.9)	25.1 (+7.0)	23.7 (-1.4)	28.3 (+4.6)	23.4 (-4.9)
1年後の支出 D.I. (前回比)	48.9 (+1.7)	52.2 (+3.3)	49.8 (+2.4)	43.9 (+5.9)	38.2 (+5.7)	41.7 (+3.5)	40.6 (+1.1)	43.3 (+2.7)	43.7 (+0.4)	44.0 (+0.3)	47.5 (+3.5)	48.1 (+0.6)

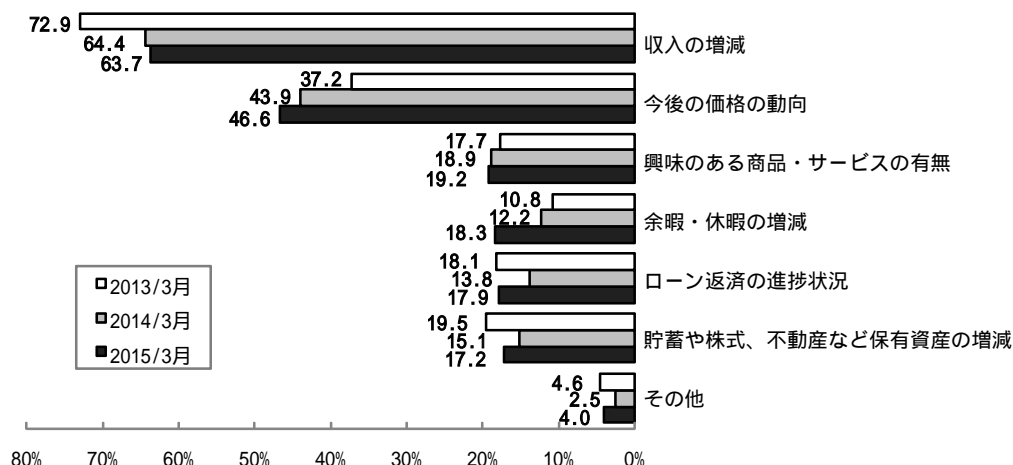
- (注) 1. 郵送調査となった2006/9月以降を掲載。
 2. 現在の支出D.I.のこれまでのピークは 28.3 (2014/12月)、ボトムは 2.7 (2009/12月)。
 1年後の支出D.I.のこれまでのピークは 38.2 (2013/6月)、ボトムは 63.4 (2009/3月)。
 3. シャドー部分は、景気後退期。

今後1年間の支出を考えるにあたって特に重視することは、「収入の増減」との回答が最も多く、次いで「今後の価格の動向」、「興味のある商品・サービスの有無」といった回答が多かった。

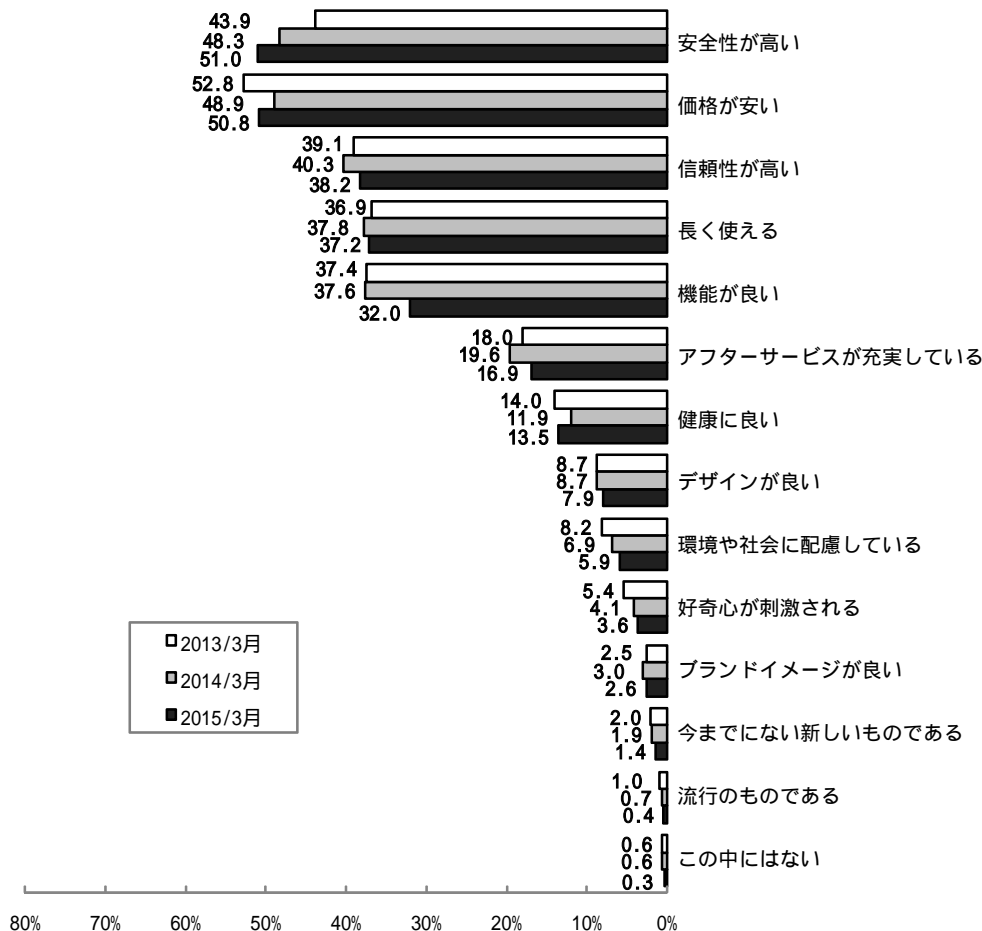
商品やサービスを選ぶ際に特に重視することは、「安全性が高い」との回答が最も多く、次いで「価格が安い」、「信頼性が高い」、「長く使える」、「機能が良い」といった回答が多かった。

(注) Q22、Q23は、第53回(2013/3月調査)、第57回(2014/3月調査)と今回特別に実施。

(図表7) 今後1年間の支出を考えるにあたって特に重視すること(複数回答)[Q22]



(図表8) 商品やサービスを選ぶ際に特に重視すること(3つまでの複数回答)[Q23]

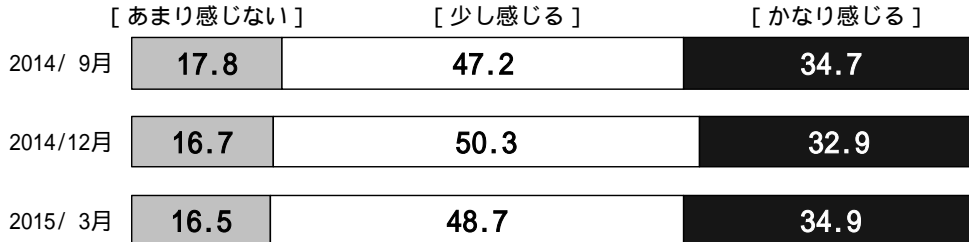


1-2-3. 雇用環境

1年後を見た勤労者^(注)の勤め先での雇用・処遇の不安については、「かなり感じる」との回答が増加したことから、雇用環境D.I.は悪化した。

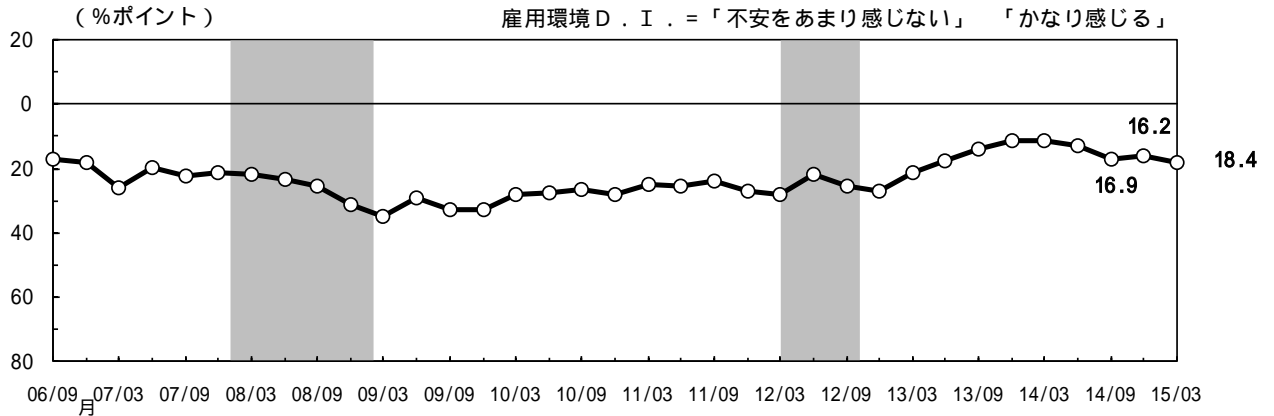
(注) 勤労者：会社員・公務員(会社役員を含む)およびパート・アルバイトなど。

(図表9) 1年後を見た勤め先での雇用・処遇についての不安(勤労者)
〔Q20<うち勤労者>〕



(%)

<雇用環境D.I.の推移>



(注) 1. 郵送調査となった2006/9月以降を掲載。

2. 雇用環境D.I.のこれまでのピークは 11.2(2013/12月)、ボトムは 34.7(2009/3月)。

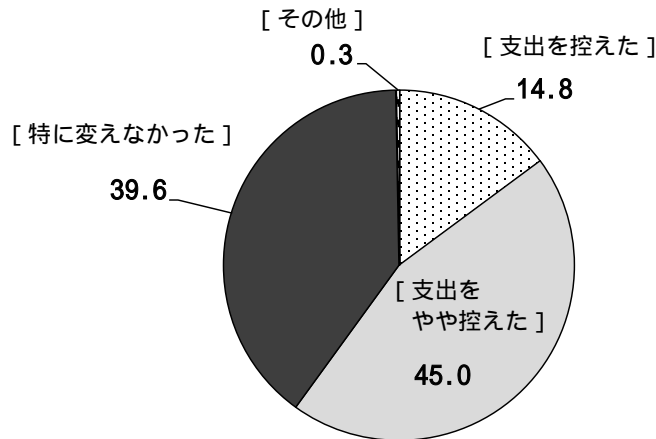
3. シャドー部分は、景気後退期。

1-2-4. 消費税率引き上げの影響等

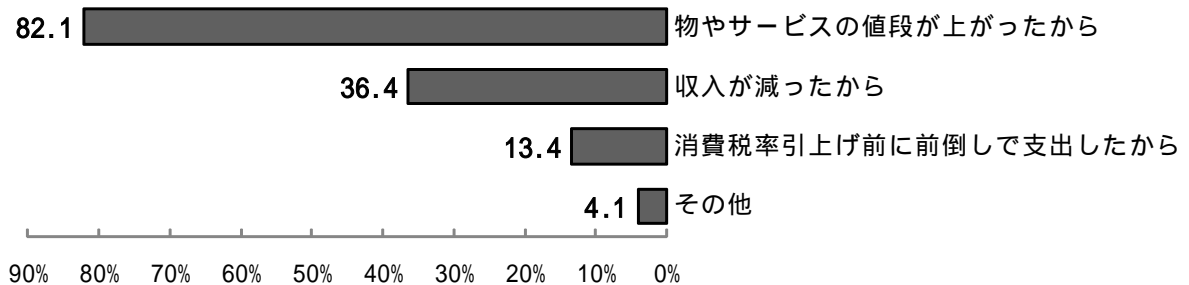
消費税率引き上げ後に「支出を控えた」、「支出をやや控えた」との回答は合計で約6割となった。「支出を控えた」、「支出をやや控えた」と答えた人にその理由を伺うと、「物やサービスの値段が上がったから」との回答が8割前半となった。また、いつ頃まで消費税率の引き上げが影響したかを伺うと、「現在（冬）でもなお支出を控えている」との回答が7割台半ばとなった。

（注）Q21は、今回特別に実施。

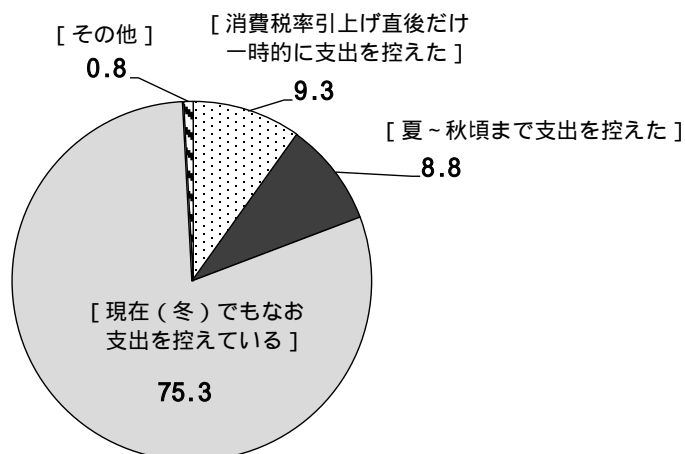
（図表10）消費税率引き上げ後に支出全体をどのように変えたか〔Q21〕



（図表11）消費税率引き上げ後に支出を控えた理由（複数回答）〔Q21-a〕



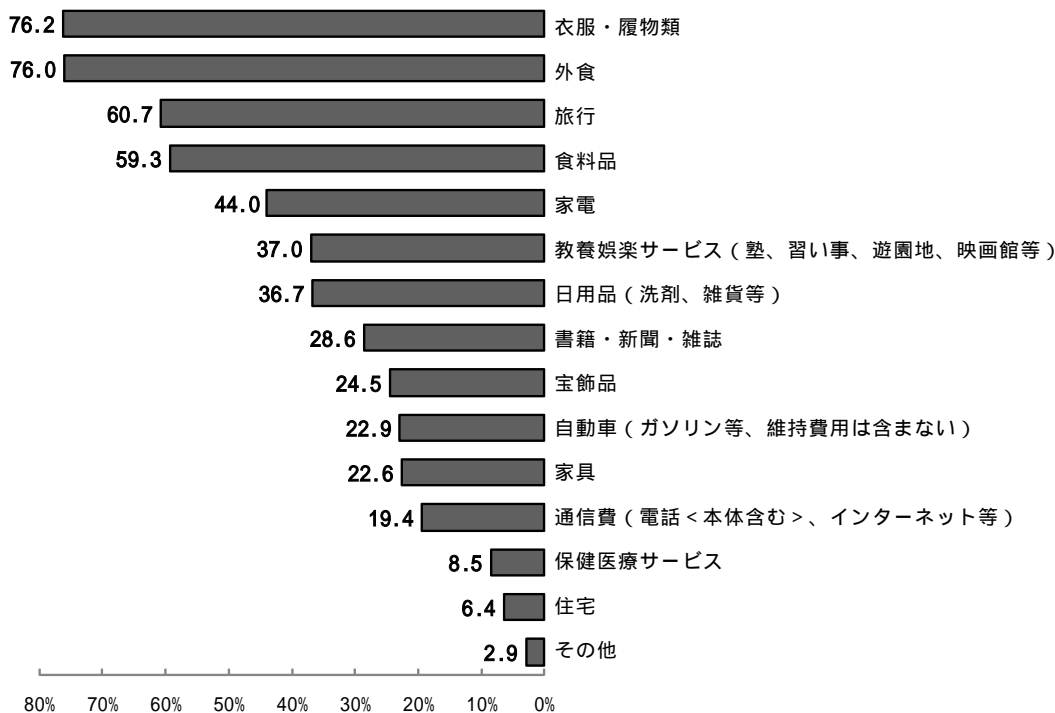
（図表12）消費税率引き上げの影響の長さ〔Q21-d〕



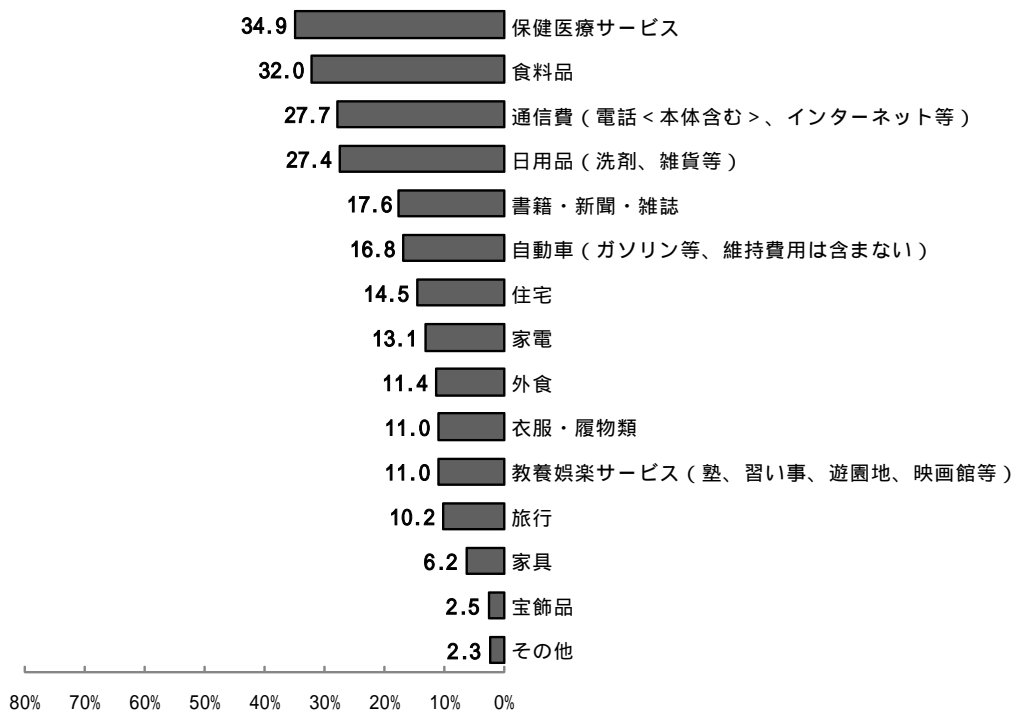
「支出を控えた」、「支出をやや控えた」と答えた人に消費税率引上げ後に支出を控えた商品・サービスを伺うと、「衣服・履物類」との回答が最も多く、次いで「外食」、「旅行」、「食料品」が多かった。また、「支出を増やした、あるいは変えなかった商品・サービス」を伺うと、「保健医療サービス」との回答が最も多く、次いで「食料品」、「通信費」、「日用品」が多かった。

(注) Q21は、今回特別に実施。

(図表 1 3) 消費税率引上げ後に支出を控えた商品・サービス (複数回答) [Q21-b]



(図表 1 4) 消費税率引上げ後に支出を増やした、あるいは変えなかった商品・サービス (複数回答) [Q21-c]



1-3. 物価に対する実感

1-3-1. 現在の物価

現在の物価^(注1)に対する実感(1年前対比)は、『上がった』^(注2)との回答が増加した。

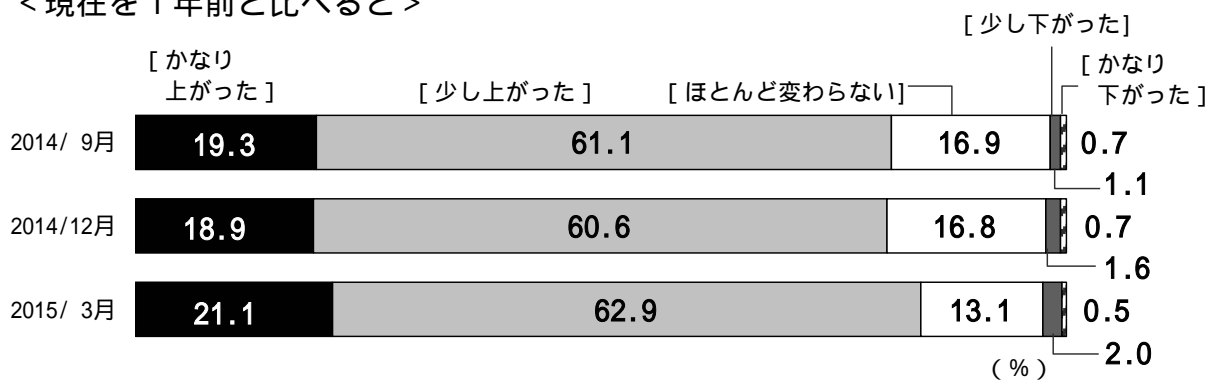
また、1年前に比べ、物価は何%程度変化したかについて、具体的な数値による回答を求めたところ、平均値は+5.6%(前回:+5.3%)、中央値は+5.0%(前回:+5.0%)となった。

(注1)「あなたが購入する物やサービスの価格全体」と定義。消費税率引上げの影響を除くベース。

(注2)『上がった』は「かなり上がった」と「少し上がった」の合計。

(図表15) 現在の物価に対する実感〔Q12、13〕

< 現在を1年前と比べると >



< 1年前に比べ現在の物価は何%程度変化したと思うか >

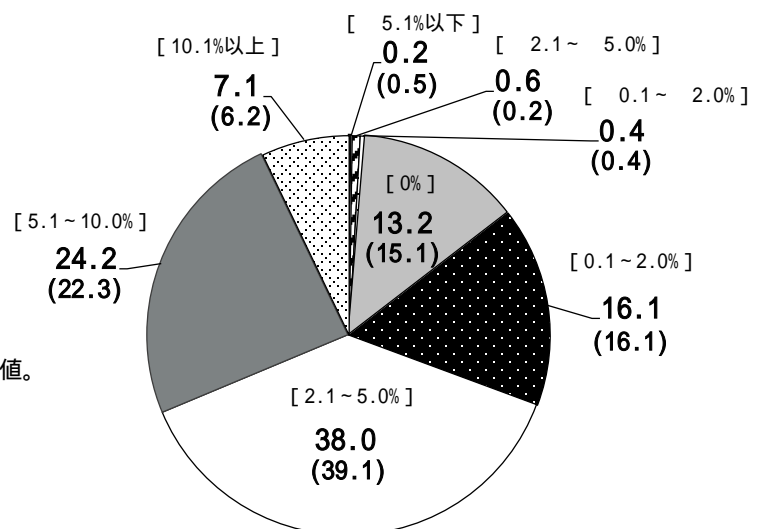
	平均値 ^(注1)	中央値 ^(注2)
14/ 9月	+ 4.8 %	+ 5.0 %
14/12月	+ 5.3 %	+ 5.0 %
15/ 3月	+ 5.6 %	+ 5.0 %

(注) 1. 極端な値を排除するために上下各々0.5%のサンプルを除いて計算した平均値。
 なお、全サンプルの単純平均値は、+5.7%
 (前回調査<2014/12月実施>:+5.5%)

2. 回答を数値順に並べた際に中央に位置する値。

< 今回調査の回答の分布 >

()内は前回調査(2014/12月実施)の結果



1-3-2. 1年後の物価

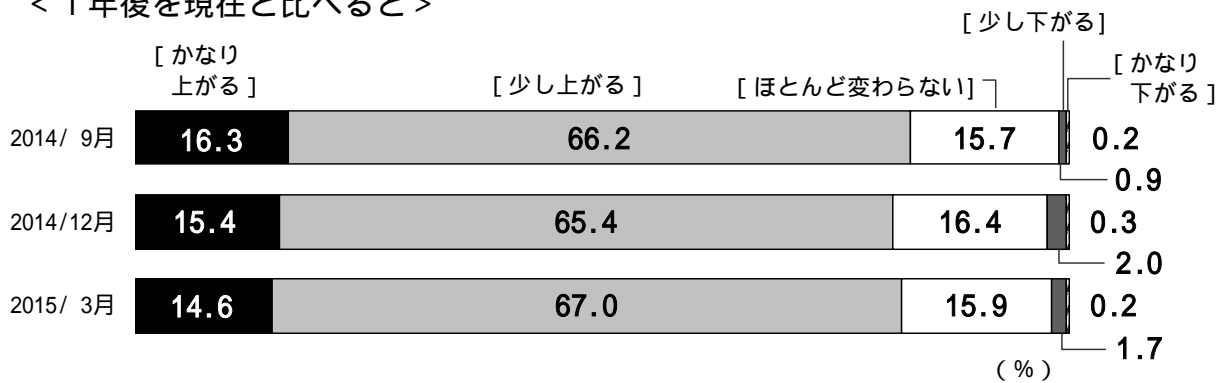
1年後の物価については、『上がる』^(注)との回答が増加した。

また、1年後の物価は現在と比べ何%程度変化すると思うかについて、具体的な数値による回答を求めたところ、平均値は+4.8%（前回：+4.8%）、中央値は+3.0%（前回：+3.0%）となった。

（注）『上がる』は「かなり上がる」と「少し上がる」の合計。

（図表16）1年後の物価に対する見方〔Q14、15〕

< 1年後を現在と比べると >



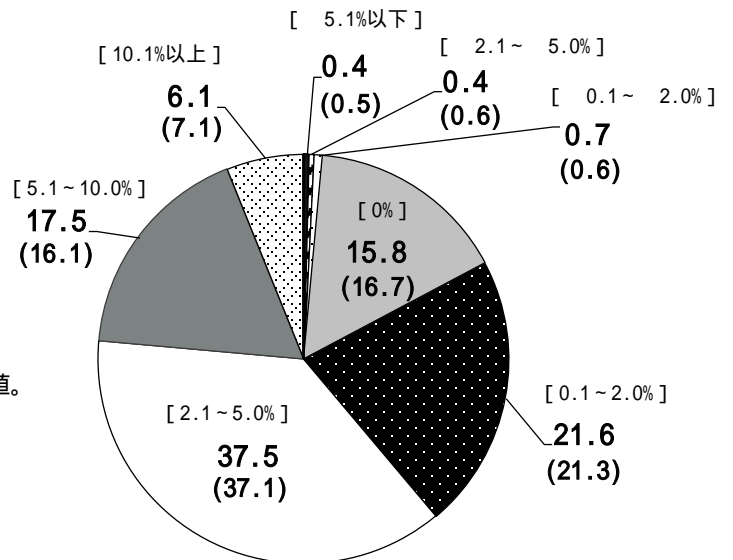
< 1年後の物価は現在と比べ何%程度変化すると思うか >

	平均値 ^(注1)	中央値 ^(注2)
14/ 9月	+ 4.8 %	+ 3.0 %
14/12月	+ 4.8 %	+ 3.0 %
15/ 3月	+ 4.8 %	+ 3.0 %

（注）1. 極端な値を排除するために上下各々0.5%のサンプルを除いて計算した平均値。
 なお、全サンプルの単純平均値は、+4.9%
 （前回調査<2014/12月実施>：+4.9%）

2. 回答を数値順に並べた際に中央に位置する値。

< 今回調査の回答の分布 >
 ()内は前回調査(2014/12月実施)の結果



1-3-3. 5年後の物価

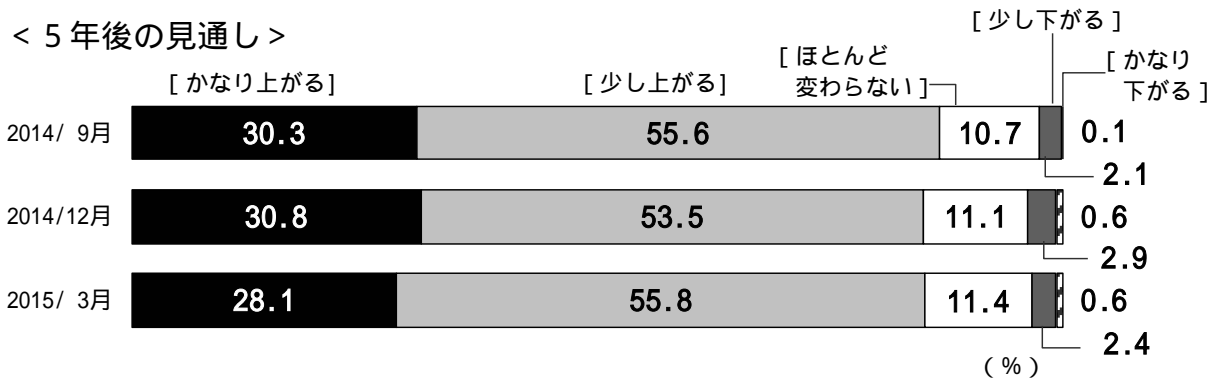
5年後の物価^(注1)については、『上がる』^(注2)との回答が減少した。

また、これから5年間で物価は現在と比べ毎年、平均何%程度変化すると思うかについて、具体的な数値による回答を求めたところ、平均値は+4.0%（前回：+4.0%）、中央値は+2.5%（前回：+2.0%）となった。

（注1）消費税率引上げの影響を除くベース。

（注2）『上がる』は「かなり上がる」と「少し上がる」の合計。

（図表17）5年後の物価に対する見方〔Q16、17〕



< 5年後の物価は現在と比べ毎年、平均何%程度変化すると思うか >

	平均値 ^(注1)	中央値 ^(注2)
14/ 9月	+ 3.8 %	+ 2.0 %
14/12月	+ 4.0 %	+ 2.0 %
15/ 3月	+ 4.0 %	+ 2.5 %

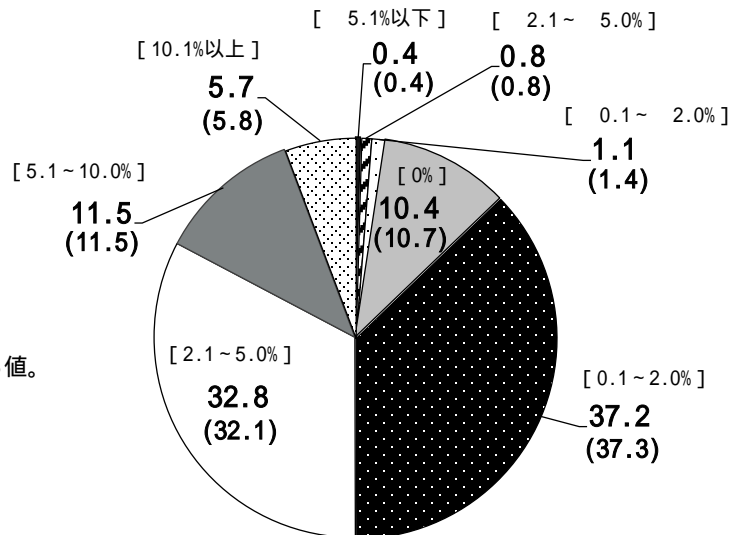
（注）1. 極端な値を排除するために上下各々0.5%のサンプルを除いて計算した平均値。

なお、全サンプルの単純平均値は、+4.1%（前回調査<2014/12月実施>：+4.2%）。

2. 回答を数値順に並べた際に中央に位置する値。

< 今回調査の回答の分布 >

（ ）内は前回調査(2014/12月実施)の結果



1-3-4. 物価上昇・下落についての感想

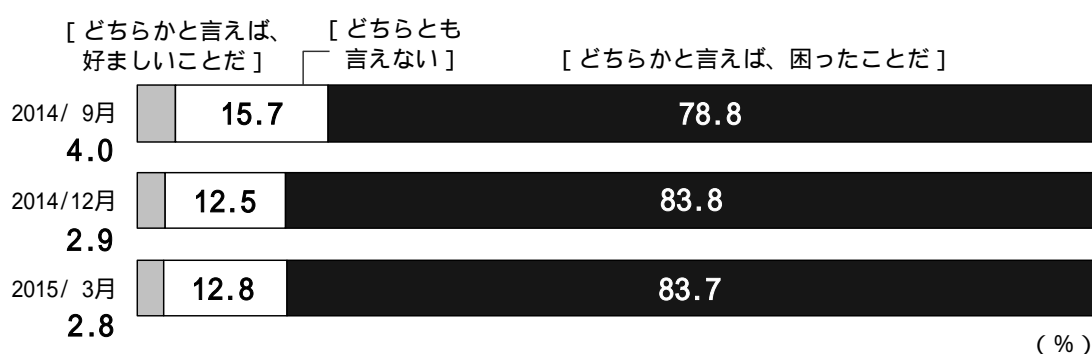
1年前と比べて物価が『上がった』^(注1)と答えた人(8割台前半)に、その感想を聞くと、8割台前半の人が「どちらかと言えば、困ったことだ」と回答した。

また、1年前に比べて物価が『下がった』^(注2)と答えた人(2.5%)に、その感想を聞くと、「どちらかと言えば好ましいことだ」との回答が3割台前半、「どちらかと言えば、困ったことだ」との回答が約4割となった。

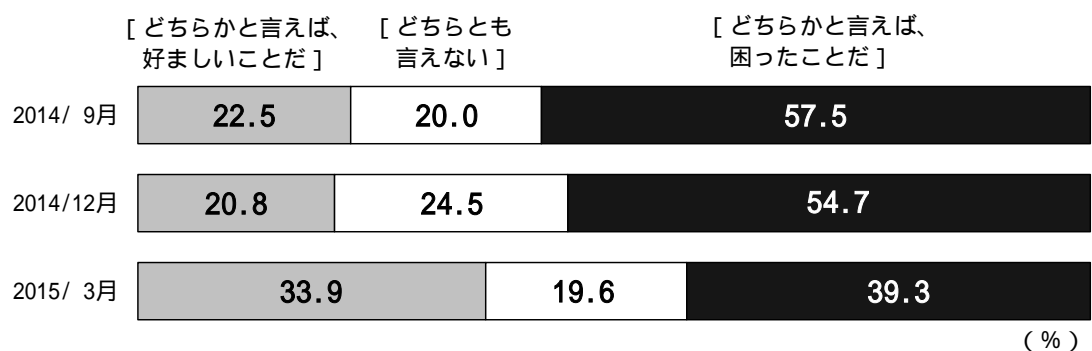
(注1)『上がった』は「かなり上がった」と「少し上がった」の合計。

(注2)『下がった』は「かなり下がった」と「少し下がった」の合計。

(図表18) 物価上昇についての感想〔Q12-a〕



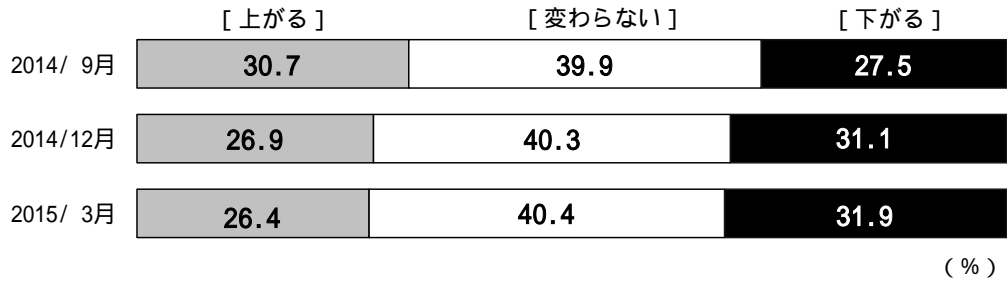
(図表19) 物価下落についての感想〔Q12-b〕



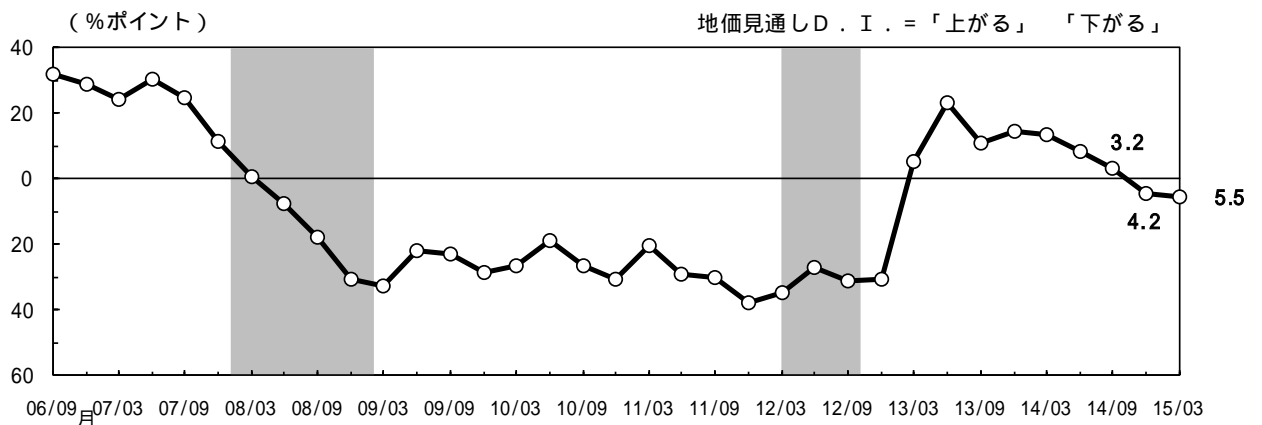
1-4. 先行きの地価動向

先行きの地価については、「上がる」との回答が減少し、「下がる」との回答が増加したことから、地価見通しD.I.はマイナス幅を拡大した。

(図表20) 先行きの地価動向に対する見方〔Q18〕



<地価見通しD.I.の推移>

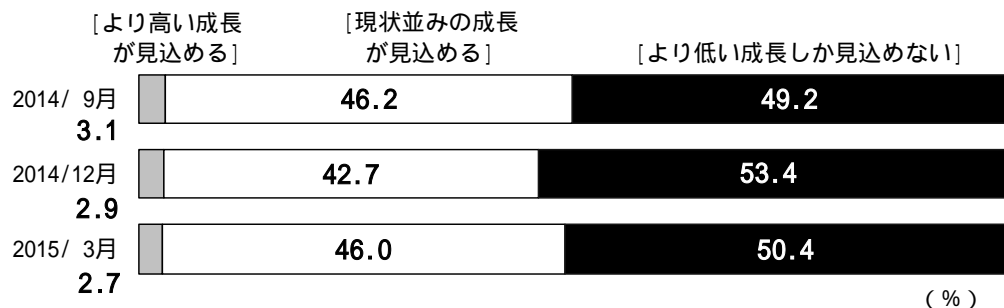


- (注) 1.本設問は2006/9月から実施。
 2.地価見通しD.I.のこれまでのピークは 31.9 (2006/9月)、ボトムは 37.5 (2011/12月)。
 3.シャドー部分は、景気後退期。

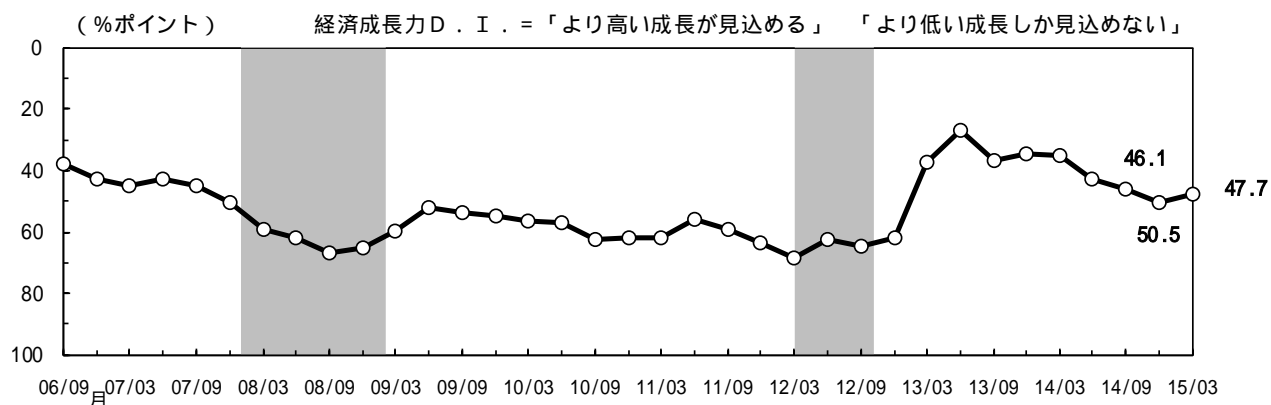
1-5. 日本経済の成長力

日本経済の成長力については、「より低い成長しか見込めない」との回答が減少したことから、経済成長力D.I.はマイナス幅を縮小した。

(図表2-1) 日本経済の成長力に対する見方〔Q19〕



< 経済成長力D.I.の推移 >



- (注) 1.本設問は2006/9月から実施。
 2.経済成長力D.I.のこれまでのピークは 26.7(2013/6月)、ボトムは 68.3(2012/3月)。
 3.シャドー部分は、景気後退期。

1 - 6 . 日本銀行の金融政策に関する認知度

日本銀行が、消費者物価の前年比上昇率 2 % の「物価安定の目標」を掲げていることについては、「知っている」との回答は 2 割台後半となった。また、日本銀行が、量・質ともに次元の違う金融緩和（「量的・質的金融緩和」）を行っていることについては、「知っている」との回答は 2 割台半ばとなった。

（図表 2 2）日本銀行が、消費者物価の前年比上昇率 2 % の「物価安定の目標」を掲げている〔Q24〕

	[知っている]	[見聞きした ことはあるが、 よく知らない]	[見聞きした ことがない]
2014/ 9月	26.7	42.3	30.4
2014/12月	27.4	33.2	39.1
2015/ 3月	26.8	39.4	33.1

(%)

（図表 2 3）日本銀行が、量・質ともに次元の違う金融緩和（「量的・質的金融緩和」）を行っている〔Q25〕

	[知っている]	[見聞きした ことはあるが、 よく知らない]	[見聞きした ことがない]
2014/ 9月	24.8	40.2	34.1
2014/12月	34.6	36.3	28.9
2015/ 3月	25.3	38.2	35.6

(%)

2. 集計対象標本の属性分布

(構成比 : %、母集団対比 : %ポイント)

	2015/3月調査 (A)	母集団 ^(注) (B)	母集団対比 (A) - (B)	抽出標本 (参考値)
--	--------------------	-----------------------------	------------------------	-----------------

(性別構成)

男 性	47.5	48.3	0.8	49.5
女 性	52.5	51.7	0.8	50.5

(年齢別構成)

20～29歳	9.7	12.4	2.7	11.7
30～39歳	16.0	16.0	0.0	17.2
40～49歳	18.8	17.4	1.4	19.1
50～59歳	18.2	14.7	3.5	15.8
60～69歳	19.3	17.4	1.9	16.6
70歳以上	18.1	22.0	3.9	19.7

(地域別構成)

北海道	4.4	4.4	0.0	4.1
東 北	8.3	7.3	1.0	7.5
関 東	32.4	33.4	1.0	33.7
北 陸	4.0	4.3	0.3	4.1
中 部	15.4	14.0	1.4	14.3
近 畿	16.3	16.2	0.1	16.1
中 国	6.1	5.9	0.2	5.6
四 国	2.9	3.2	0.3	3.0
九 州	10.2	11.4	1.2	11.6

(注) 住民基本台帳に記録された2014年1月1日現在の市区町村別人口による。

3. アンケート調査結果の詳細

「生活意識に関するアンケート調査」(第61回)

2015年3月調査

・選択肢ごとに付記した数値は、有効回答者数を100としたときの各選択肢の回答比率(単位%、小数点以下第2位を四捨五入)。
 ・回答は、特に断りのない限り、択一。
 ・四捨五入等の関係から、択一回答項目についても、その回答比率の合計は必ずしも100とはならない。
 ・()内の数値は、特に断りのない限り、前回調査結果(第60回、2014年12月実施)。

Q1.	1年前と比べて、今の景気はどう変わりましたか。	
	1 良くなった	7.0 (5.9)
	2 変わらない	61.0 (54.7)
	3 悪くなった	31.6 (38.8)
Q2.	Q1のご回答について、そのようにお考えになるのは、主にどのようなことからですか。 【2つまでの複数回答】	
	1 マスコミ報道を通じて	17.4 (21.5)
	2 景気関連指標、経済統計をみて	9.0 (11.0)
	3 勤め先や自分の店の経営状況から	35.0 (31.4)
	4 自分や家族の収入の状況から	60.5 (57.7)
	5 商店街、繁華街などの混み具合をみて	25.1 (26.7)
	6 その他	4.5 (3.8)
Q3.	現在の景気をどう感じますか。	
	1 良い	0.5 (0.3)
	2 どちらかと言えば、良い	9.9 (7.2)
	3 どちらとも言えない	39.9 (35.4)
	4 どちらかと言えば、悪い	39.8 (44.3)
	5 悪い	9.7 (12.4)
Q4.	1年後の景気は、今と比べてどうなると思いますか。	
	1 良くなる	11.2 (7.3)
	2 変わらない	61.1 (54.6)
	3 悪くなる	27.1 (37.8)
Q5.	景気の状態を考えたとき、現在の金利水準をどのようにお考えになりますか。	
	1 金利が低すぎる	51.7 (50.1)
	2 適当な水準である	33.6 (34.2)
	3 金利が高すぎる	10.9 (12.2)
Q6.	1年前と比べて、あなたの暮らし向きがどう変わったと感じますか。	
	1 ゆとりが出てきた	4.0 (3.9)
	2 どちらとも言えない	48.2 (44.9)
	3 ゆとりがなくなってきた	47.5 (51.1)
Q6-a.	(Q6で1「ゆとりが出てきた」と答えた方へ) その理由は次のうちどれですか。【複数回答】	
	1 給与や事業などの収入が増えたから	55.6 (67.0)
	2 利子や配当などの収入が増えたから	7.8 (10.2)
	3 不動産の売却などの収入があったから	2.2 (2.3)
	4 物価が下がったから	2.2 (2.3)
	5 不動産・株式などの資産の価格が上がったから	13.3 (18.2)
	6 扶養家族が減ったから	20.0 (12.5)
	7 その他	18.9 (15.9)

Q6-b. (Q6で3「ゆとりがなくなってきた」と答えた方へ)

その理由は次のうちどれですか。【複数回答】

- | | | | | |
|-------------------------|------|---|------|---|
| 1 給与や事業などの収入が減ったから | 48.7 | (| 50.4 |) |
| 2 利子や配当などの収入が減ったから | 9.6 | (| 10.1 |) |
| 3 不動産の購入などの支出があったから | 3.7 | (| 3.1 |) |
| 4 物価が上がったから | 67.8 | (| 71.1 |) |
| 5 不動産・株式などの資産の価格が下がったから | 1.5 | (| 2.9 |) |
| 6 扶養家族が増えたから | 8.5 | (| 8.0 |) |
| 7 その他 | 19.8 | (| 16.6 |) |

Q7. 1年前と比べて、あなたの世帯の収入はどう変わりましたか。

- | | | | | |
|---------|------|---|------|---|
| 1 増えた | 10.2 | (| 9.2 |) |
| 2 変わらない | 51.3 | (| 49.8 |) |
| 3 減った | 38.3 | (| 40.8 |) |

Q8. 1年後のあなたの世帯の収入は、現在と比べてどうなるとお考えですか。

- | | | | | |
|---------|------|---|------|---|
| 1 増える | 8.7 | (| 6.6 |) |
| 2 変わらない | 54.5 | (| 51.4 |) |
| 3 減る | 36.5 | (| 41.5 |) |

Q9. 1年前と比べて、あなたの世帯の支出はどう変わりましたか。

- | | | | | |
|---------|------|---|------|---|
| 1 増えた | 43.7 | (| 47.1 |) |
| 2 変わらない | 35.0 | (| 32.8 |) |
| 3 減った | 20.3 | (| 18.8 |) |

Q9-a. (Q9で1「増えた」と答えた方へ)

支出が増えたのはなぜですか。【複数回答】

- | | | | | |
|-------------------------|------|---|------|---|
| 1 収入が増えたから | 5.5 | (| 5.3 |) |
| 2 将来の収入増が見込まれるから | 1.3 | (| 1.1 |) |
| 3 不動産など実物資産が値上がりしたから | 1.0 | (| 1.3 |) |
| 4 株式や債券などの金融資産が値上がりしたから | 0.9 | (| 1.5 |) |
| 5 住宅など不動産を購入したから | 4.9 | (| 5.0 |) |
| 6 車など耐久消費財を購入したから | 16.3 | (| 15.3 |) |
| 7 扶養家族の増加などに伴う支出があったから | 20.4 | (| 18.7 |) |
| 8 生活関連の物やサービスの値段が上がったから | 72.4 | (| 74.1 |) |
| 9 その他 | 18.0 | (| 18.6 |) |

Q9-b. (Q9で3「減った」と答えた方へ)

支出が減ったのはなぜですか。【複数回答】

- | | | | | |
|-------------------------|------|---|------|---|
| 1 収入が減ったから | 75.6 | (| 74.3 |) |
| 2 将来の収入増が見込まれないから | 45.0 | (| 51.4 |) |
| 3 不動産など実物資産が値下がりしたから | 2.0 | (| 3.3 |) |
| 4 株式や債券などの金融資産が値下がりしたから | 1.8 | (| 3.3 |) |
| 5 扶養家族の減少などに伴い支出が減ったから | 8.2 | (| 7.7 |) |
| 6 その他 | 10.0 | (| 7.9 |) |

Q10-1. Q9の支出のうち、あなたの世帯では、生活費や教育費などの日常的な支出をどうしていますか。

- | | | | | |
|----------|------|---|------|---|
| 1 増やしている | 12.4 | (| 11.4 |) |
| 2 変えていない | 51.9 | (| 51.1 |) |
| 3 減らしている | 34.6 | (| 35.8 |) |

Q10-2. それでは、趣味やレジャーなど選択的な支出をどうしていますか。

- | | | | | |
|----------|------|---|------|---|
| 1 増やしている | 4.5 | (| 4.7 |) |
| 2 変えていない | 38.7 | (| 36.6 |) |
| 3 減らしている | 55.9 | (| 57.7 |) |

- Q11. 今後1年間、あなたの世帯では支出をどうされますか。
- | | |
|--------|---------------|
| 1 増やす | 5.0 (4.8) |
| 2 変えない | 41.2 (42.0) |
| 3 減らす | 53.1 (52.3) |

- Q12. 次に「物価」についておうかがいします。
あなたご自身の感じでは、「物価」は1年前と比べてどう変わりましたか
(「物価」とは、あなたが購入される物やサービスの価格全体のことです)。
- | | |
|-------------|---------------|
| 1 かなり上がった | 21.1 (18.9) |
| 2 少し上がった | 62.9 (60.6) |
| 3 ほとんど変わらない | 13.1 (16.8) |
| 4 少し下がった | 2.0 (1.6) |
| 5 かなり下がった | 0.5 (0.7) |

- Q12-a. (Q12で1または2『上がった』と答えた方へ)
「物価」が上がったことをどのように思いますか。
- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 どちらかと言えば、好ましいことだ | 2.8 (2.9) |
| 2 どちらかと言えば、困ったことだ | 83.7 (83.8) |
| 3 どちらとも言えない | 12.8 (12.5) |

- Q12-b. (Q12で4または5『下がった』と答えた方へ)
「物価」が下がったことをどのように思いますか。
- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 どちらかと言えば、好ましいことだ | 33.9 (20.8) |
| 2 どちらかと言えば、困ったことだ | 39.3 (54.7) |
| 3 どちらとも言えない | 19.6 (24.5) |

- Q13. それでは、1年前に比べ現在の「物価」は何%程度変わったと思いますか。
消費税率引上げ分は含めずにご回答下さい。
数値をご記入のうえ、上・下いずれかに をお願いします。なお、「0%」と思われる方は、記入欄に「0」とご記入下さい。

上がった
() %
下がった
平均値^(注1) : +5.6 (+5.3)
中央値^(注2) : +5.0 (+5.0)

(注1) 極端な値を排除するために上下各々0.5%のサンプルを除いて計算した平均値。
全サンプルの単純平均値は +5.7 (前回調査<2014/12月実施> : +5.5)。
(注2) 回答を数値順に並べた際に中央に位置する値。

- Q14. 1年後の「物価」は、現在と比べるとどうなると思いますか。
- | | |
|-------------|---------------|
| 1 かなり上がる | 14.6 (15.4) |
| 2 少し上がる | 67.0 (65.4) |
| 3 ほとんど変わらない | 15.9 (16.4) |
| 4 少し下がる | 1.7 (2.0) |
| 5 かなり下がる | 0.2 (0.3) |

Q15. それでは、1年後の「物価」は現在と比べ何%程度変わるとおもいますか。

数値をご記入のうえ、上・下いずれかに をお願いします。なお、「0%」と思われる方は、記入欄に「0」とご記入下さい。

上がる
() %
下がる
平均値^(注1) : +4.8 (+4.8)
中央値^(注2) : +3.0 (+3.0)

(注1) 極端な値を排除するために上下各々0.5%のサンプルを除いて計算した平均値。
全サンプルの単純平均値は +4.9 (前回調査<2014/12月実施> : +4.9)。
(注2) 回答を数値順に並べた際に中央に位置する値。

Q16. 5年後の「物価」は、現在と比べるとどうなると思ひますか。

消費税率引上げ分は含めずにご回答下さい。

1 かなり上がる	28.1 (30.8)
2 少し上がる	55.8 (53.5)
3 ほとんど変わらない	11.4 (11.1)
4 少し下がる	2.4 (2.9)
5 かなり下がる	0.6 (0.6)

Q17. それでは、5年後の「物価」は現在と比べ毎年、平均何%程度変わるとおもひますか。

消費税率引上げ分は含めずにご回答下さい。

数値をご記入のうえ、上・下いずれかに をお願いします。なお、「0%」と思われる方は、記入欄に「0」とご記入下さい。

上がる
毎年、平均 () %
下がる
平均値^(注1) : +4.0 (+4.0)
中央値^(注2) : +2.5 (+2.0)

(注1) 極端な値を排除するために上下各々0.5%のサンプルを除いて計算した平均値。
全サンプルの単純平均値は +4.1 (前回調査<2014/12月実施> : +4.2)。
(注2) 回答を数値順に並べた際に中央に位置する値。

Q18. 先行きの土地の価格(地価)はどうなると思ひますか。

1 上がる	26.4 (26.9)
2 変わらない	40.4 (40.3)
3 下がる	31.9 (31.1)

Q19. 長い目で見たととき、日本経済の成長力について、どう思ひますか。

1 より高い成長が見込める	2.7 (2.9)
2 現状並みの成長が見込める	46.0 (42.7)
3 より低い成長しか見込めない	50.4 (53.4)

Q20. これから1年後を見たとき、あなた(またはご家族)は、勤め先での雇用・処遇(給与、ポスト、福利厚生など)に不安を感じますか。

		うち勤労者 ^(注)
1 あまり感じない	17.0 (15.3)	16.5 (16.7)
2 少し感じる	49.9 (48.9)	48.7 (50.3)
3 かなり感じる	31.3 (33.5)	34.9 (32.9)

(注) 勤労者: 会社員・公務員(会社役員を含む)およびパート・アルバイトなど。

以降のQ21～23は家計の消費行動に関する質問です。
 (注) () 内の数値は、第57回(2014年3月実施)調査結果。

Q21. 消費税率は2014年4月から8%に上げられました。それ以前に比べ、あなたの世帯は支出全体をどのように変えましたか。次のうちもっとも当てはまるものをお選び下さい。

1 支出を控えた	14.8
2 支出をやや控えた	45.0
3 特に変えなかった	39.6
4 その他	0.3

Q21-a. (Q21で1「支出を控えた」または2「支出をやや控えた」と答えた方へ)
 支出を控えたのはなぜですか。【複数回答】

1 消費税率引上げ前に前倒しで支出したから	13.4
2 物やサービスの値段が上がったから	82.1
3 収入が減ったから	36.4
4 その他	4.1

Q21-b. (Q21で1「支出を控えた」または2「支出をやや控えた」と答えた方へ)
 具体的に支出を控えた商品・サービスは次のうちどれですか。【複数回答】

1 住宅	6.4
2 家具	22.6
3 家電	44.0
4 自動車(ガソリン等、維持費用は含まない)	22.9
5 宝飾品	24.5
6 衣服・履物類	76.2
7 書籍・新聞・雑誌	28.6
8 食料品	59.3
9 日用品(洗剤、雑貨等)	36.7
10 外食	76.0
11 保健医療サービス	8.5
12 通信費(電話<本体含む>、インターネット等)	19.4
13 旅行	60.7
14 教養娯楽サービス(塾、習い事、遊園地、映画館等)	37.0
15 その他	2.9

Q21-c. (Q21で1「支出を控えた」または2「支出をやや控えた」と答えた方へ)
 全体として支出を控えた中、あなたの世帯で支出を増やした、あるいは変えなかった商品・サービスがあれば、次のうちからお選び下さい。【複数回答】

1 住宅	14.5
2 家具	6.2
3 家電	13.1
4 自動車(ガソリン等、維持費用は含まない)	16.8
5 宝飾品	2.5
6 衣服・履物類	11.0
7 書籍・新聞・雑誌	17.6
8 食料品	32.0
9 日用品(洗剤、雑貨等)	27.4
10 外食	11.4
11 保健医療サービス	34.9
12 通信費(電話<本体含む>、インターネット等)	27.7
13 旅行	10.2
14 教養娯楽サービス(塾、習い事、遊園地、映画館等)	11.0
15 その他	2.3

Q21-d. (Q21で1「支出を控えた」または2「支出をやや控えた」と答えた方へ)

2014年4月の消費税率の上げは、いつ頃まであなたの世帯の支出に影響を与えましたか。
次のうちもっとも当てはまるものを選び下さい。

1 消費税率上げ直後だけ一時的に支出を控えた	9.3
2 夏～秋頃まで支出を控えた	8.8
3 現在(冬)でもなお支出を控えている	75.3
4 その他	0.8

Q11(今後1年間の支出)のご回答をご確認下さい。

Q22. あなたの世帯が今後1年間の支出を考えるにあたって特に重視することは、次のうちどれですか。【複数回答】

1 収入の増減	63.7	(64.4)
2 貯蓄や株式、不動産など保有資産の増減	17.2	(15.1)
3 ローン返済の進捗状況	17.9	(13.8)
4 今後の価格の動向	46.6	(43.9)
5 余暇・休暇の増減	18.3	(12.2)
6 興味のある商品・サービスの有無	19.2	(18.9)
7 その他	4.0	(2.5)

Q23. あなたの世帯が商品やサービスを選ぶ際に特に重視することは、次のうちどれですか。

【3つまでの複数回答】

1 価格が安い	50.8	(48.9)
2 安全性が高い	51.0	(48.3)
3 信頼性が高い	38.2	(40.3)
4 機能が良い	32.0	(37.6)
5 長く使える	37.2	(37.8)
6 環境や社会に配慮している	5.9	(6.9)
7 デザインが良い	7.9	(8.7)
8 流行のものである	0.4	(0.7)
9 今までにない新しいものである	1.4	(1.9)
10 アフターサービスが充実している	16.9	(19.6)
11 好奇心が刺激される	3.6	(4.1)
12 健康に良い	13.5	(11.9)
13 ブランドイメージが良い	2.6	(3.0)
14 この中にはない	0.3	(0.6)

以降のQ24～25は日本銀行の金融政策に関する質問です。

Q24. 日本銀行が、消費者物価の前年比上昇率2%の「物価安定の目標」を掲げていることをご存知ですか。

1 知っている	26.8	(27.4)
2 見聞きしたことはあるが、よく知らない	39.4	(33.2)
3 見聞きしたことがない	33.1	(39.1)

Q25. 日本銀行が、量・質ともに次元の違う金融緩和(「量的・質的金融緩和」)を行っていることをご存知ですか。

1 知っている	25.3	(34.6)
2 見聞きしたことはあるが、よく知らない	38.2	(36.3)
3 見聞きしたことがない	35.6	(28.9)

あなたご自身のことやご家族のことについてお尋ねします。立ち入ったことも含まれていますが、調査結果を分析するうえで重要な情報です。ご理解のうえ、ご回答のほどお願いいたします。

- Q26. あなたの性別は次のどちらですか。
- | | |
|------|---------------|
| 1 男性 | 47.5 (48.3) |
| 2 女性 | 52.5 (51.7) |
- Q27. あなたの年齢（満年齢）は次のどれにあてはまりますか。
- | | |
|----------|---------------|
| 1 20～29歳 | 9.7 (9.4) |
| 2 30～39歳 | 16.0 (15.0) |
| 3 40～49歳 | 18.8 (18.4) |
| 4 50～59歳 | 18.2 (16.4) |
| 5 60～69歳 | 19.3 (20.4) |
| 6 70歳以上 | 18.1 (20.5) |
- Q28. あなたのご職業は次のどれにあてはまりますか。
- | | |
|-----------------------------|---------------|
| 1 農林漁業 | 2.0 (3.0) |
| 2 自営業・自由業 | 9.2 (8.7) |
| 3 常雇（会社員・公務員など＜会社役員を含む＞） | 37.7 (36.8) |
| 4 臨時・日雇（パート・アルバイト） | 16.1 (16.4) |
| 5 上記1～4以外（主婦、学生、年金生活者、無職など） | 34.8 (34.7) |
- Q29. あなたご自身および配偶者の昨年1年間の合計収入（税込）は、次のどの区分に入りますか。ただし、退職金や土地の売却代金など一時的な収入は除き、年金は含めて下さい。
- | | |
|-------------------|---------------|
| 1 1円～300万円未満 | 38.2 (39.0) |
| 2 300万円～500万円未満 | 29.1 (28.8) |
| 3 500万円～1,000万円未満 | 23.3 (23.0) |
| 4 1,000万円以上 | 5.8 (5.4) |
| 5 収入はない | 2.7 (3.3) |
- Q30. 現在一緒に住んでいるご家族の構成は次のどれにあてはまりますか。
- | | |
|-------------------------------|---------------|
| 1 単身世帯（一人暮らし） | 11.3 (9.2) |
| 2 1世代世帯（夫婦のみ） | 26.9 (28.3) |
| 3 2世代世帯（親と子供の世帯） | 49.8 (50.2) |
| 4 3世代世帯（祖父母と親と子の世帯） | 9.5 (10.1) |
| 5 その他の世帯（兄弟姉妹のみ、友人同士、祖父母と孫など） | 2.4 (1.8) |
- 日本銀行の政策や活動について、ご意見やご要望などがありましたら、ご自由にお書き下さい。
- | | |
|--------|---------------|
| 1 記入あり | 16.8 (19.9) |
| 2 記入なし | 83.2 (80.1) |